

金光寺山

金光寺山は中ノ島北端に位置し、ここからは島前の北側の美しい海岸線を眺めることができる。島前を作り上げた成層火山の麓に形成された衛星（寄生）火山として約 600 万年前にできた山だ。

838 年に、平安時代（794-1185）の朝廷貴族であった小野篁（802-852 年）が追放され、この山に送られた。篁は遣唐使として中国に 2 回向かったが、どちらも日本海でトラブルに遭遇し、2 回とも引き返すことになった。3 回目の出航の準備をしているときに、彼より位の高い人物が断わりもなく篁の船を使うことにした。これに怒った篁は仮病を使い唐に行かなかった。天皇は篁が唐への渡航を避けようと故意に事業を妨害したとの嫌疑で彼を隠岐国への 2 年の流罪に処した。金光寺山にいた時期に、篁は後に著名な歌集である百人一首の第 11 首に選ばれる和歌を書いた。島で 1 年 2 ヶ月を過ごしたのちに、天皇は彼を宮廷に呼び戻したが、これは噂によると、小野篁の文学的才能が恋しくなったためと言われる。

山の頂上にある金光寺は、天上の仏である大日如来に捧げられたものである。正面の泉は獰猛で、剣の達人である水掛不動明王の像に守られており、地元の子どもたちは悪い行いをすると水掛不動明王が来るよとたしなめられる。泉の水は皮膚病と神経痛を癒す効果があると言われている。